

# 2011年 さいたま教区カトリック正義と平和 スタディツアー 案内書

## 田中正造の足跡を辿るバスツアー

「問われている現代社会と我々—田中正造とその思想から考える」

—公害の原点・人災第1号の足尾銅山鉍毒被害地、正造生没の地をめぐる—

明治期から太平洋戦争末期までの日本は、国家としての自由を名乗りながら、弱者に  
つらい仕打ちをしても、国権のためならやむを得ずを通じた時代でした。足尾銅山鉍毒  
事件は、周囲を廃村にするほど鉍毒を垂れ流しながら、国益に代えられないと被害を隠  
蔽し、偽装した、公害訴訟の草分けともいえる事件でした。田中正造は国民の権利と生  
命の大切さを主張し、足尾銅山の鉍毒から住民を守るために一生を奉げた政治家です。  
正造が死んだ時、遺品は「ずた袋」に入っていた「聖書」「憲法」「雑記帳」、そして「渡良瀬  
川の石ころ」だけであったといえます。

このスタディツアーでは田中正造の足跡を辿りながら、正義と平和を希求する私たち  
のあり方と将来への展望を、ともに考え、わかちあいたいと思います。

日 程：2011年9月17日(土) 9:15 熊谷駅改札口集合

現地学習：渡良瀬遊水池(谷中村跡)、正造記念館、正造生家、  
庭田家(正造逝去の家)、雲龍寺(正造分骨地)

講 師：布川 了(足尾鉍毒事件田中正造記念館名誉館長)

費 用：3,000円(小学生以下1,000円) ※弁当持参

募集人数： 40名

申込締切： 8月 20日

申 込 先：スタディツアー担当 山口明裕

E-mail/roba-saitama@apost.plala.or.jp

FAX/0284-21-8091 TEL/0284-21-5355



## 田中正造 (たなかしょうぞう) 〔天保12年(1841)～大正2年(1913)〕

### 生誕170周年、鉱毒問題直訴事件110周年、没後98周年

安蘇郡小中村(現栃木県佐野市小中町)の名主富蔵の家に生まれ、幼名は兼三郎(かねさぶろう)といました。17歳で名主となり、23歳の時石塚村(現佐野市石塚町)の大沢カツと結婚しました。

このころ、領主であった旗本六角家の改革運動に先頭に立って活動しましたが、捕らえられ11ヶ月の投獄生活を送りました。その後一時、江刺県(現秋田県と岩手県の一部)で官吏をしていましたが、明治7年(1874)に郷里の小中村へ帰り、明治11年(1878)に栃木県第4大区3小区区会議員に選ばれ、政治家としての第一歩を踏み出しました。明治13年(1880)には栃木県会議員に当選し、自由民権運動家として当時の県令三島通庸(みちつね)に対抗しました。

その後、明治23年(1890)の第1回衆議院議員選挙に当選し、以後6回連続当選しています。代議士時代には、明治24年(1891)の第2回帝国議会で鉱毒被害に関する質問書の提出を始めとし、足尾銅山の鉱毒問題に取り組みました。明治34年(1901)には、鉱毒被害の惨状を訴えるため明治天皇に直訴しようと試みましたが、果たせませんでした。

代議士を辞職後(直訴の直前に辞職)は、渡良瀬川の遊水池計画の反対運動に尽力し、遊水池の候補地とされた谷中村(現栃木県藤岡町)に移住し、住民と共に村を守るために闘いました。しかし政府による土地収用法の適用や谷中村残留民家の強制破壊により谷中村は消滅します。正造は、この後も残留民と共に谷中村復興を図り、また政府の治水政策の誤りを指摘するために、関東地方の河川調査を続けましたが、その途中で病に倒れ、大正2年(1913)9月4日、渡良瀬川河畔の庭田家で73歳の生涯を終えました。

春日岡山惣宗寺(そうしゅうじ、佐野市金井上町)で行われた葬儀には4～5万人の人が参列したといわれています。また、正造の遺骨は彼を慕う人々の要望で、正造生誕地墓所(佐野市小中町)、春日岡山惣宗寺、雲龍寺(群馬県館林市下早川田)、田中霊祠(栃木県藤岡町)、北川辺霊場(埼玉県北川辺町)の5ヶ所に分骨されました。(※年齢は数え年)

.....

### 田中正造の生没地をめぐるバスツアー

名前		所属教会	
住所	〒		
電話		FAX	
通信欄			

FAX/0284-21-8091